

まつしまにしてんちいきしげんほぜんかい

松島西天地域資源保全会（箕輪町）

・組織の活動面積 A= 79.06 ha	組織形態	農地維持 ■	資源向上(共同) ■	資源向上(長寿命化) □
・組織の構成員数 約 620 人	取組開始年度	平成26年～	平成26年～	—

構成員	農業者・区会議員・自治会常会長・農業委員・農事役員
-----	---------------------------

組織の概要

・天竜川右岸、河岸段丘の上であり西天竜幹線水路の水を水田に供給しています。近年宅地化が進み水田の中に住宅が点在してきています。又、水田耕作者の高齢化とこれに伴う耕作離れが見られ、水路の管理が行き届かない傾向にあります。

水路の適正な管理、水のある生活環境確保の為、耕作者と地域居住者による通水前の水路の泥上げ清掃及び水路点検と目地詰め、水路の管理、夏場の3回の水路周りの草刈奨励、定期的な主水路の堆積物の清掃及び除草、排水路年2回の泥上げ、止水後の水路点検及び目地詰め等を行っています。

特性

弥生時代から米作を中心に行われてきました農業は、天竜川を中心に水を求めての耕作でした。河岸段丘上の畑地に水を引き水田にしたいという要求は、天保3年(1832年)ころに始まりさまざまな経過を辿りながら、大正11年に起工式そして昭和3年に竣工したもので、当時の食糧増産に係る米作への限りない要求がうかがえます。幹線の完成後も水管理については、漏水、配水に5名の幹線水利夫を雇用し、18の集落ごとに水利組合を作り51名の水利夫を置いた(上伊那郡誌)とされています。現代においては、食生活の変化・米作りに対する価値観の相違・国の減反政策、加えて下がった米価、に対し米離れが進んでおり、耕作放棄地こそないものの耕作を委託する傾向が加速しています。このため、水田管理が行き届かなくなり、特に個人による水路管理に手が回らず、草が覆い茂る等適正な水管理に事欠いてきているのが現状です。先人たちの、100年の及ぶ水への思い、また、引水の苦労を思いこの水資源を守っていきたくと考えます。

